

※一般質問の内容は、議員自身が6月定例会議事録に基づき記述しています。



あかいけ ひろもと
赤池 弘源
(明和)

学校内樹木が子どもたちに与える緑の影響について

問 現在の校内樹木の管理では、樹木の持つ緑の効果を子どもたちに十分に与えることができない。子どもの頃からの緑に対する意識を高めるため、校内緑化管理計画が必要であると思うが、市の考えを伺う。

部長 策定は考えないが、業者に委託するなど、そういったものではなく、学校と協議し、それぞれの学校でこのようにやっていこうという大きな絵ぐらいは描けると思うので検討したい。

市長 学校の緑の状況を調べてみて、見直しをしていくことは大事である。検討したいと思う。

要望 学校の緑を維持管理していくのは大変である。その計画指針を立てないと、誰でもできるものでない。仕様書でそのようなところを

しっかりと押さえていただきたい。

国民主権が反映されるための投票率向上策について

問 若者は市政に一定の関心はある。しかし、情報を得られていないため、選挙に行く気になれない。そこで若い世代を対象に富士宮市の計画を解説する講座を提案するがいかがか。

部長 富士宮市総合計画に関する出前講座について実施しているが、最近では、申込みの多くが小、中、高校からの依頼である。今後は、市内企業などにも出前講座を知っていただけるよう周知を図っていきたい。

宮バス・宮タクの運行をさらに進めるために

問 北欧発信の「モビ」を実証実験している地方公共団体があるが、「モビ」のシステムについて市の考えを伺う。

部長 「モビ」の利用方法は、スマートフォンで簡単に予約でき、月額の手続きで乗り放題プランもある。交通事業者とともに先進事例を研究し、持続可能な公共交通の構築を図っていく。



すずき ひろむ
鈴木 弘
(至誠)

富士宮市の成長戦略になる環境政策「ゼロカーボン推進戦略」について

問 既存住宅の断熱改修の推進の考えはいかがか伺う。

部長 断熱材の施工や断熱サッシ取付けなどの断熱効果のある設備の普及を促すとともに、住宅の改修に係る支援制度について情報提供することにより、既存住宅の断熱改修を推進していく。温室効果ガス排出量の削減を図り、脱炭素社会の実現に向けた市民に対する補助制度については、他の自治体の補助制度を情報収集し、新たな補助制度について研究していきたい。

問 電気自動車等の導入割合の目標が2030年度46%とあるが、どのようにすすめていくのか。

部長 令和4年4月1日現在の市域内の電気自動車の導入割合は20.8%で、増加傾向にある。公

用車においては、電気自動車2台、プラグインハイブリッド車2台を保有、令和5年度新たに電気自動車2台購入予定。計画的に電気自動車の導入を進めていく。

意見 例えば、電気バスを近くの会社で導入してもらい、富士山を走ってもらうと、電気自動車への認識が高まると考える。

問 事業所の役割について。

部長 再生可能エネルギーや省エネルギー設備の導入、環境負荷の低減に寄与する製品、サービスの供給等の事業活動における脱炭素化の推進に取り組んでいただきたい。

問 市民の役割について。

部長 再生可能エネルギー電気の購入、サステナブルファッション、食品ロスの削減、ゼロカーボン・ドライブなどの市民の皆様が取り組みやすい行動指針として、ゼロカーボンアクション30を示している。市民にできることから脱炭素に向けて取り組んでいただけるように、取組について周知啓発していきたい。